



前回の広報うつのみやプラス「LRT（次世代型路面電車システム）の整備」に対して108人の市民の皆さんから意見をいただきました。代表的なものを紹介します。

■質問 より便利にLRTを利用することや、私たち市民がLRTをまちのシンボルとして育てていくために必要だと思うことを教えてください。

■全国で初めての 신설路線開通を国内外にアピールすることで、知名度アップや観光の活性化に繋げる（上籠谷町・70代）。

■現在の優先整備区間だけでなく、JR宇都宮駅から東武宇都宮駅までを結び、さらに作新学院まで延伸する（西川田南1丁目・60代）。

■自転車を乗せられる車両を導入し、My(マイ)自転車で遠出できる街にする（上戸祭町・50代）。

■宇都宮にゆかりのある有名なキャラや人物をLRTにプリントしたり、車内で使用したりすることで、他県への情報発信に繋げる（松原1丁目・40代）。

■停留場に宇都宮市や芳賀町の観光案内を見ることができるタッチパネルを設置し、外国人の観光客でも簡単に利用できるように、英語や中国語などを併記する（氷室町・30代）。

■鬼怒川河川敷の利活用のため、臨時でも良いから、河川近くに停留場を設置すべき（東今泉1丁目・70代）。

■車道を渡って停留場へ行く際の安全性を確保する必要がある（東今泉2丁目・60代）。

■各停留場にレンタサイクルを充実させることで、自転車の心配をせずに買い物などに行けるようにする（インターパーク2丁目・60代）。

■交通結節点に大型の無料駐車場を設置し、「パーク&ランド」方式にしない限り、利用者は限られてしまう（立伏町・50代）。

■市民の日は、無料で利用できるようにする（20代）。

■「特典付LRTふるさと納税」を導入する（西川田町・60代）。

■LRT施設見学などを企画し、利用者の促進を図ることが大切である（60代）。

前回の広報うつのみやプラス「LRT（次世代型路面電車システム）の整備」の概要



誰もが快適に移動できる公共交通ネットワークの構築

人口減少・少子超高齢社会に対応したネットワーク型コンパクトシティの実現のためには、拠点間のつながりを高め、市内を快適に移動できるようにすることが重要です。本市では、輸送効率に応じた階層性のある公共交通ネットワークの構築に取り組んでいて、その中心を担う東西方向の基幹公共交通としてLRTを整備します。LRTは、高い輸送力や定時性・速達性を備え、従来の路面電車と比べて、騒音・振動が少ないなど、人と環境に優しい特徴を持っていて、沿線地域の産業の活性化や将来的な鉄道との結節による広域交通ネットワークの形成などの効果を期待しています。

LRT整備に向けた主な検討状況

LRTの事業方式は、公共が整備主体となり、軌道（レール）や停留場などの施設等を整備・保有し、営業主体が運行や日常の維持管理を担う「公設型上下分離方式」を採用します。また、平成25年度以降、具体的な事業化に向け、「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」などで、LRTの導入空間イメージや、需要予測と採算性、概算事業費と財政負担などについて検討を進めています。

平成28年度の着工を目指して

LRTの整備については、平成28年度の着工を目指して、現在、国からの軌道事業の特許取得などに必要な計画の策定や軌道設計などの取り組みを進めています。

広報うつのみやプラスや政策特集は、皆さんと一緒に考えていただきたいテーマを取り上げ、年数回編集します。



差出有効期間  
平成28年8月  
15日まで  
【切手不要】

3 2 0 8 7 4 0

(受取人)  
宇都宮市旭1丁目1番5号

(宇都宮市役所)  
宇都宮市総合政策部広報広聴課

行



3 2 0 8 7 4 0

3

氏名	住所	
年齢	歳	職業

差し支えがなければ記入してください。広報紙で意見を紹介する際には、氏名の記載はしません。なお、はがきの情報については、目的以外には使用しません。